

アイファースト・レポート

SPIRIT age とは、

S・sincere 誠実＝まごころ
P・partnership 協力
I・information 情報
R・risk 損失
や危害が生じる可能性
I・idea 創意工夫・考え
T・trust 信用・信頼
age ・・時代・一生 etc.

SPIRIT age通信



荒井 川瀬 錦島 杉崎 松原

私たちの夢・目標 ⇒ お客様の誠実なパートナーとして、経営に役立つ情報やアイデア、あらゆるリスクに備えるためのプラン等を提供することで、お客様から信頼される仕事を一生貫いていくことです。

1. **Sincere** 誠実 誠意 ところが基本

■ “真心という言葉があまり聞かれなくなってどのくらい経つでしょうか。新潟中越地震には多額の寄付金が集まりスマトラ沖地震の津波による犠牲者に対しても多くの国々と人々から援助の手が差し伸べられています。

人を思い遣る心、人に誠意を尽くすこと、人に優しくできること、これが真心でしょうか。言い換えれば、真心があつてこそ、誠意や誠実が伝わるのではないのでしょうか。

■戦後の日本は、物質面を豊かにすることを目標としてきたために心の問題を置き去りにしてきたように思います。

大量生産、大量消費の時代はとうに終わり、これからは極力リサイクルし、地球環境

と人に優しい商品開発が望まれるようになりました。

■ I T時代が叫ばれ、この十数年のコンピューターを中心とした技術革新は凄まじいものがあります。10年前、職場にはそれほどパソコンが普及していませんでした。ワープロ専用機が随分と使われていました。今は、パソコンのみならず、携帯電話の発達、ユビキタス理論による家電製品の I T化など、今後、どれだけ世の中に情報技術が発達していくのでしょうか。

■ I Tの発達をつぶさに見ていくとき、ある現象に目を止めることができます。それは、パソコンや携帯電話を使ってコミュニケーションを図っているということです。コンピューター技術がどれだけ発達しても、私

ハイライト:

- ・モノから心への時代到来
- ・リスクの正体とは？
- ・会社が、突然、不良債権の烙印を押される？
- ・テーマスのブロンズ像
- ・アイファーストの紹介

目次:

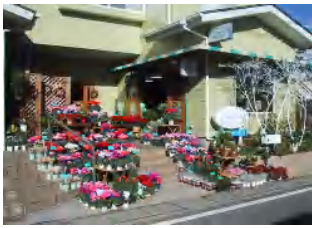
Sincere 誠実 まごころ	1
Partner パートナシップ	2
Information 情報	3
Risk リスクの正体	4
idea 創意工夫・考え	5
Trust 信用・信頼	6
age 時代	7

2. **Partnership** お客様の良き相談相手となること

■パラリンピックが開催されるようになって何年経つのでしょうか。障害を持つ方々の世界的なスポーツ大会であるパラリンピックは、オリンピックが終了した後開催されます。一流競技の興奮が覚めやらぬ会場で行われます。障害を持つということは、健常者である私たちから見れば大変なことです。

それでも競技結果は、どれも私たち凡人の域を超えます。背景にある努力は並々ならぬものと推測されます。しかし彼らにも良きパートナーが存在するはずで、人間は一人では生きられません。必ず良き理解者、援助者が必要ではないのでしょうか。

■経営者の方々は得てして孤独です。



ビジネスモデルご紹介 フラワーショップ ガーランド様

■ガーランドさんでは、インターネットを利用して花束の注文ができるように、一早くefloraネットワークに加入しました。これまでは、他地域へ花を贈る場合、どのような花が贈られたのか知りたいという、お客様からの要望がありました。ガーランドさんは贈った花の写真をデジカメで撮りお客様にEメールを利用してその写真を送ったり、ハガキにプリントアウトして送付するそうです。

ガーランドさんにとっては専門店としての特色や得意とする部分をお客様にアピールすることができ、お客様側も専門店と直に接するような気持ちになれるので好評です。

■湯河原町中央2-16-11
電話 0465-63-8020
<http://www.eflora.co.jp>

あなたの会社が
突然、不良債権の
烙印を押される？



この世は、いつ何時、なにが起こるかわかりません。その時のために備えることは、経営者の責務ではないでしょうか。本当に大変なことです。

2. Partnership お客様の良き相談相手となること

■パラリンピックが開催されるようになって何年経つのでしょうか。障害を持つ方々の世界的なスポーツ大会であるパラリンピックは、オリンピックが終了した後開催されます。一流競技の興奮が覚めやらぬ会場で行われます。障害を持つということは、健常者である私たちから見れば大変なことです。それでも競技結果は、どれも私たち凡人の域を超えます。背景にある努力は並々ならぬものがあると推測されます。しかし彼らにも良きパートナーが存在するはずで、人間は一人では生きられません。必ず良き理解者、援助者が必

要ではないでしょうか。

■経営者の方々は得てして孤独です。経営上の課題を解決するために日々心を砕いています。これを解決するために相談できる人がいるのでしょうか。存在したとしても、最終判断は自ら下さなければならぬのが経営者の宿命です。

◆私たちが目指すのは、経営者の方々にとって、良き相談相手になることです。経営者の方々から信頼を得るということは、どういうことか、真剣に考え行動していきたいと考えます。

3. Information 情報とは“情けに報いること”

■企業の盛衰を決定づけるのは、企業の三要素である「人・もの・金」といえるかも知れません。現代では、この三要素に加えて、「情報・技術」といった要素が加わるようです。ただ、情報の収集・伝達、技術力といった問題も、よくよく考えれば人間が関与するものですから“企業は人なり”という言葉に集約されてしまうのではないのでしょうか。

■情報と言えば、昨今当たり前のように使われる「IT産業」「IT革命」なるものが、少しずつ巷にも浸透しつつあります。IT=情報技術は、かの産業革命をはるかに凌ぐ勢いで全世界を席卷していくことでしょう。わずか数年前まで、携帯電話はそれを使わない人々にとって迷惑な存在でした。今ではシルバー層まで、当然のように携帯電話を手に使っています。一度使っ

ば、その便利さから離れられなくなってしまふのでしょうか。

■技術革新が絶え間なく続き、世の中はハイテクの波に飲み込まれていくようです。しかし、この波が大きくなればなるほど、ローテク（手作業）、ハイタッチ（人間的なふれあい）の部分が見直されていくのではないのでしょうか。インターネットがどんなに発達しても、それだけで営業が成り立つわけではなく、人間的なふれあいが営業を成り立たせるのだと確信します。

◆私がお客様に、ぜひ提供したい情報は、インターネットで誰もが取れるものではなく、足で稼がなければ集められない地域における生の情報です。営業で地域を駆け回る私たちが情報収集し、それを発信する基地・中継地となり、それぞれのお客様に提供していきたいと考えております。

4. Risk リスク = 損失や危害が生じる可能性

■原因はどうあれ、私たちの生活には損失や危害をこうむる可能性が存在します。不測の事態が多大な損失を生むこともあるでしょう。その損失を補填するには貯えだけでは、とても対応で

きません。“最少の手配で最大の効果を生む”これを実現しなければ、人間社会の営みは継続できません。

■取引金融機関が、突然破綻したとします。融資を含めた取引をしてい

たお客様は、どうなるのでしょうか？預金だけであれば、預金保険機構から1千万円まで保護されます。お金を借りている方はどうなるのでしょうか？

ここが問題です！！

■実は個々の金融機関では、お客様に内緒でお客様の格付けを実施しています。これは自己査定と言われるものです。何年か前までは融資先の格付け（分類作業）は当局（金融機関監督官庁）が行っていました。2～3年に1回、検査に入り、融資先の査定をする訳です。分類債権の枠組みは、概ね下記の通りです。

第1分類：正常先

第2分類：要注意先

第3分類 要管理先 破綻懸念先

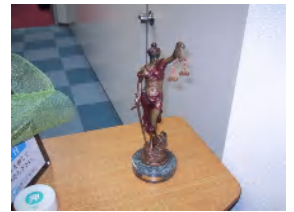
第4分類：実質破綻先

◆数年前、当局（監督官庁）は、グローバルスタンダード（実はアメリカンスタンダード）を基に金融ビッグバンを実施し金融機関の自由競争を促しました。同時に金融機関自らが資産を査定する『自己査定』なる制度を導入しました。それまで当局が査定していた資産を銀行自らが査定するわけですから、マニュアルが必要となったのです。マニュアル策定に際

しては、大企業、中小企業、個人事業主まで同一のマニュアルとしました。公認会計士の監査を必要とする大企業から、奥さんが帳簿を付けている個人企業まで、同じモノサシで査定するわけです。このことはどういうことか？と言うと、中小零細企業まで大企業と同じ財務内容を求められるということです。今まで正常先と判断されていた先が要注意先に格下げされる可能性があります。財務内容が弱いから中小零細企業なのです。財務内容は弱くとも経営者の人柄や商売の内容・技術で中小企業専門金融機関は貸し出しをして来た訳です。ところが、自己査定マニュアルによる査定の結果、お客様の内容が悪いということになれば、自らの懐から引当金を積まなければならなくなりました。それが全国各地で中小金融機関が破綻した原因です。

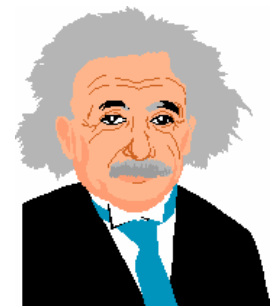
その結果、中小企業は初めて自らの分類結果を知ることになり、悪くすると資金調達ができなくなり営業に窮してしまうのです。

◆最近になって、中小企業向けの自己査定マニュアルを作成すると報道されていますが、遅きに逸しているといわざるを得ません。



テミスのブロンズ像
甲冑を身にまとい、左手の天秤を高々とかかげ、右手には鋭い剣をたずさえて、神々しい美しさを放つ女神・・・ギリシャ神話に登場する「法と正義の女神」です。この像は、福島会計事務所様の受付を守っています。（詳細：なべしま新聞）

ハイテクがどんなに進もうと、人間の世界を動かすのはハイタッチ（人間的ふれあい）の部分である！！



◆**アインシュタイン**は12才の時、“この巨大な世界”の謎を解くために一生を捧げる決意をしたと書き留めている。しかし両親は、彼が幼い頃なかなか言葉が話せなかったため、低脳児ではないかと恐れていたと言われる。体の発育も遅く、本人も虚弱児ではないかと思ひ込み、競技や体操を嫌った。15才までは、学校の成績は全般的に悪かったが、16歳になる頃から劇的な進歩を見せ始めた。相対性理論の萌芽を含むエッセイを書いたのもこの年である。

平凡社「年齢の本」より

5. idea 創意工夫・考えを伝える

■アイデアは、どんな時に出るか？ニュートンが、リンゴの実が落ちるのを見て「万有引力の法則」を発見した、という逸話は有名ですが、これは本当なののでしょうか？ニュートンは森林を散策するのが好きだったと言われます。彼の散策は、思索のためだったようです。様々な実験や検証を繰り返し、頭脳が疲れた時、ウォーキングは心身のリフレッシュに最適だといわれます。どうしたら問題が解けるか、解答を発見できるかは、あ

らゆる情報を脳みそにインプットし、考えに考える日々が不可欠です。脳みそは詰め込まれた情報経験等を潜在意識の中で整理し続け、ある時、突然、答を出すのです。それが森の中であつたり、お風呂や寝床の中だつたりするわけです。

◆**私たちは、お客様に私たちが発見した創意工夫や考えを惜しみなく伝えていきたいと考えております。お客様のネットワークの一つとして役立ちたい、と考えるからです。**

6. Trust 信用・信頼は一朝一夕には築けない

■老舗企業が食材の偽装工作で社会的制裁を受け、倒産の憂き目にあったのは記憶に新しいところです。長年にわたって培って来た信用も一瞬の内に崩れてしまいました。名のある企業だから大丈夫、安心であるという評価は通用しなくなっ

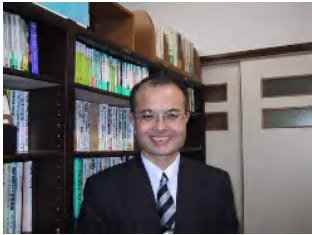
たのです。一度崩れた信用を取り戻すためには、大変な時間と労力がかかります。

◆**私たちは、今後とも信用・信頼を築くべく行動していきます。**

株式会社アイファースト
SPRIT age 創刊号
平成17年3月5日

神奈川県足柄下郡湯河原町
中央2-18-26
鍋島 一博

電話 0465-60-4455
FAX 0465-60-4466
Email : hoken@ifirst.com



株式会社アイファースト
代表取締役 鍋島一博

★私が大切にしている言葉は“一期一会”です。それぞれの人生は波乱に富み、いつも何が起こるか分からない状況です。今日お会いする方々と、またお会い出来るかどうかは“神のみぞ知る”ということではないでしょうか？そのことを考えますと、今日縁あって会えた方との時間は、心から大切にしたいと考えます。どうぞ、よろしくお願いたします。

【取得資格】

- AFP会員(日本FP協会)
- 宅地建物取引主任者
- 損害保険代理店専門試験
 - ・コンプライアンスコース
 - ・法律・税務コース
 - ・損害サービスドクター
- 生命保険
 - トータルライフコンサルタント認定
- 全信協上級実務試験
- 証券外務員試験
- 銀行業務検定試験
 - ・財務2級
 - ・法務2級
 - ・税務3級
- 全国空手道連盟式段
- 中高校社会科教員免許状
- 珠算五級

7.age 時代を感じる 時代の流れを見る

■**不易流行**という言葉があります。

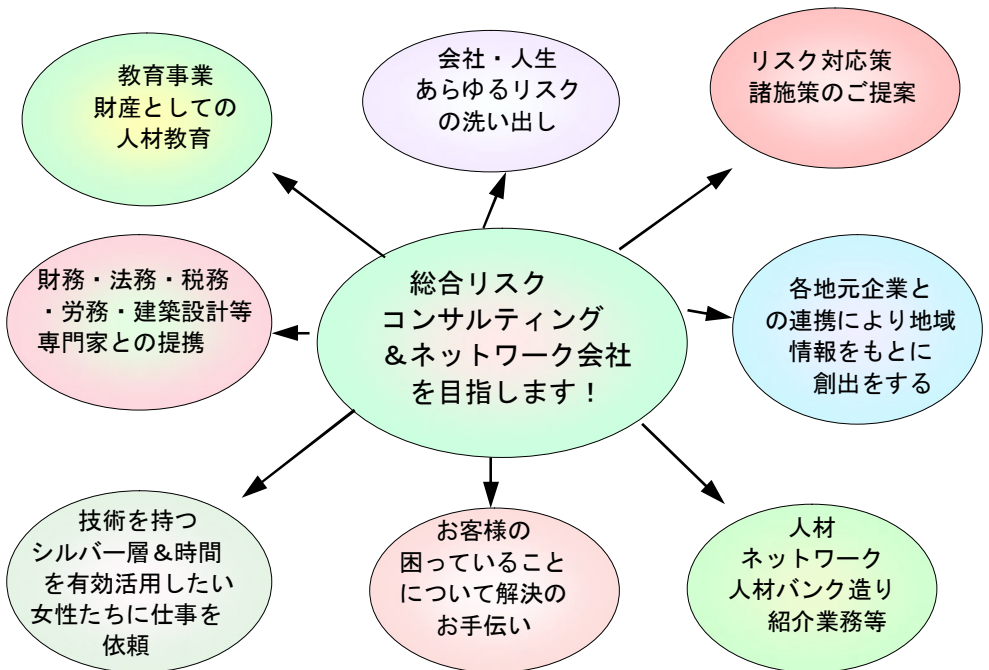
不易とは、いつまでも変わらぬものを指します。不易流行という言葉は、芭蕉俳諧の理念の一であり、俳諧の特質は新らしみにあり、その新らしみを求めて変化重ねていく「流行」こそ「不易」の本質であるとの意味だそうです。(三省堂・大辞林)

■時代の流れを見ると、何歩も先を見るのではなく、一歩先を見据える必要があるのではないかと思います。

■**不易 (=真理)** と **流行 (=新しみ)** は表裏一体です。私たちは、大切なものは何か、常に問いかけながら、仕事に精出していきたくと考えます。

◆ **“真実は、単純なところに宿る”**

私たちが目標とする会社



平成15年度 ⇒ 平成16年3月 ⇒ 3年後 ⇒ 7年後 ⇒ 10年後 ⇒
会社設立 ⇒ 会社立ち上げ ⇒ お客様に信頼される地域一番店を目指します!

“アイファースト”のご紹介

■アイファーストとは、アルファベットの *i* と英単語 *First* の頭文字を並べた造語です。 *i* は日本語の「愛」とかけています。

“愛こそ一番” という意味です。

i は情報その他を意味する英単語の頭文字を指しています。 *First* の綴りにも、**親切、ヒラメキ、リスク、精神、信用**といった意味を含めています。

さらに言えば “*i*” “*f*” を並べて “*if*” = “もしもの時のアイファースト” “もしも、お客様が困ったとき

は、私たちアイファーストにお任せください、お役に立ちます!” “もしも” に備えて私どもアイファーストをご活用ください、という願いも込めています。

■ **SPRIT age 通信** は、年4回発行予定です。今回は自己PRが中心となつてしまいましたが、今後は、お客様にとって有益な情報を満載して、ご提供していきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いたします。